

第2回 第10期多治見市財政問題市民懇話会会議録（要旨）

日時 令和5年8月1日（火） 14:30～

場所 多治見市役所 本庁舎5階第1委員会室

＜出席委員＞ 森岡会長、前川副会長、神谷委員、佐藤委員

＜事務局＞ 柚木崎総務部長、小栗財政課長、山内、虎山

1 総務部長挨拶

2 議題

（1）財政判断指標の目標値と財政向上指針の見直しについて

（2）その他

【主な意見等】

（1）財政判断指標の目標値と財政向上指針の見直しについて

委員	償還可能年数について、現行の目標値の設定時は、平成21年の実績値（7.4年）に合併特例事業債の借入増を見込んだ0.5年を加えた数値（8.0年）を目標値として設定した。一方、今回の見直し（案）では、平成30～令和2年の平均値（6.1年）に0.9年を加えた数値（7.0年）を目標値としている。設定時と見直し時で加える数値が異なるが、どのような理由か？
事務局	見直し（案）で加える数値（0.9年）は、今後予定する大型建設事業における借入増を見込んだ調整値で、現行の目標値（8.0年）とのバランスなどを考慮し設定したものである。
委員	財政判断指標の見直しと聞いて、全ての指標で緩和する方針となると思っていたが、むしろ厳しくなった指標もあって驚いた。しっかりと見直しをしている印象を受けて安心した。
事務局	今回は、実態に即して見直しを行った。このため、実態に応じた緩和した指標（経費硬直率及び経常収支比率）もあるが、一方で厳しくなった指標（償還可能年数及び財政調整基金充足率）もある。
委員	支出の抑制を進める上で、行政改革を進めていくことになると思うが、職員の人財確保についてはしっかりとやってもらいたい。優秀な人財を確保する視点を踏まえた上で、行政改革を進めてほしい。
事務局	他の自治体同様に、多治見市においても人財確保が難しい状況である。このような状況下でも大切なのは、「多治見市で働きたい」という人財を確保することにある。例えば、多治見市では学生のインターンシップを実施しており、多治見市のことをよく知ってもらったり、公務員の仕事の「やりがい」を感じてもらったりし、多治見市役所で働きたいという人財を確保することに努めている。
委員	現在の市職員の採用等はどのような状況であるか？
事務局	定員適正化計画に沿って人員の過不足を整理しているが、先程も説明したとおり、人財確保について苦慮している状態である。特に建築技術職や土木技術職、保育士等については人財

	確保が難しい状況である。
委員	庁舎建設基金について、庁舎の建設費用が当初より増額する見込みであるため、見直し（案）では基金の積立額も増額するという説明であった。建設費用について、基金で充当できない部分については借金（起債）で対応するというものでよいか？
事務局	建設費用については、基金だけではなく借金（起債）も有効活用する予定である。今回の財政判断指標についても、借金（起債）を見込んで見直し（案）を検討している。
委員	財政向上指針の見直し（案）について、いずれも根拠が明確で、しっかりと検討された上で作成されたことがわかった。

（２）その他

事務局	次回懇話会は、８月２８日（月）１３：３０～で開催予定。
-----	-----------------------------